

取り組み Q & A

Z会幼児コースが重視する5つの領域

生活・自立

表現・身体活動

ことば

数・形・論理

自然・環境

【もくじ】

『ぺあぜっと』 Q & A	2
・生活・自立編	3
・表現・身体活動編	7
・ことば、数・形・論理編	11
・自然・環境編	12
『かんがえるちからワーク』 Q & A	13
『ワークシート』 Q & A	15
『いっしょにおでかけブック』 Q & A	17





『ぺあぜっと』Q & A

『ぺあぜっと』では、遊びのように楽しみながら、生活のなかで学びを深めていきます。お子さまと一緒に『ぺあぜっと』を楽しむために、体験をしているときのお子さまの「つぶやき」を大切に受け止めてあげてください。おうちのかたとの対話によって、体験がより強くお子さまの心に残り、思考が深まります。

Q 全部親子でやらなければいけないのですか？

A 無理に親子で行う必要はありません。

お子さまが一人で主体的に取り組んでいるときは、お子さまの自主性を尊重して、温かく見守ってあげてください。取り組みの主役はお子さまです。口を出したり手を貸したくなる気持ちをぐっと抑えて、お子さまのペースで一緒に楽しみましょう。お子さまが一人でできない部分があればサポートしてあげてください。

Q 順番どおりに取り組まなければいけないのですか？

A 順番どおりに進めなくてもだいじょうぶです。

どんな課題に興味をもつかは、お子さまによって異なります。掲載順に取り組む必要はありませんので、お子さまが関心をもった課題から優先的に取り組んでみてください。毎月、『ぺあぜっと』が届いたら、親子で最初にパラパラとページをめくりながら、「どれを最初にやろうか？」と相談してみるのもよいですね。

Q やりたがらないページがあるときはどうすればよいですか？

A 全部に取り組まなくてもだいじょうぶです。

幼児期は、自分でやりたいと思ったことに取り組むことをとおして、「自分で考える力」を身につけていきます。このため、興味がなかったことを無理矢理やらせることは、「自分で考える力」の芽を摘むことにもなりかねません。『ぺあぜっと』は、年少の間に取り組んでほしい体験を厳選して掲載していますが、どうしてもやりたがらない場合は無理強いせず、「いつかやりたくなったときにやろうね」と声をかけてあげてください。



生活・自立編

この領域のねらいは、日常生活全般に関心をもち、「自分でできる」という自信を育むことです。「食育」の体験では、まるごとの素材に触れながら、調理の過程を知るのと同時に、手を動かして作業のコツを体感することを目標としています。また、「身じたく・お手伝い」の体験では、自分のことは自分でできるようにするだけでなく、家族の一員として、家事に意欲的に挑戦する姿勢を育てます。

Q 食育(調理)の際には、どんな服装をすればよいですか？

A エプロン、三角巾の着用がおすすめです。
手洗いも十分に行ってください。

爪は短く切っておき、髪の毛が長いお子さまは必ず束ねておきます。エプロンは自分で脱ぎ着ができるシンプルなものを。三角巾も使用すると、衛生面でより安心です。また、室内履きを履くと、落下物などから足を守れます。ただし、転倒しないよう、足に合ったものを選びましょう。手洗いの際は、爪や指の間もしっかりと洗うことを教えます。



手の洗い方



「食育」が目ざすもの

「食育」とは本来、知育（頭）、徳育（心）、体育（身体）を統合した、「生きる力」の基本として提唱されたもの。“Learning by doing”（体験からの学び）、それも子ども自身が主役になる体験をし、さらに自分の力で発見することで、子どもたちに「自分ってすばらしい」という自尊感情や、「もっとやってみたい」という挑戦意欲が育ちます。

監修者紹介

坂本佳奈

食育・食文化 料理研究家。幼少のころから食育教育の実践を受けながら育つ。食育は人間の基本、食文化は文化の根底を基本理念に、アジアを中心に家庭料理を研究中。修士(生活科学)。





生活・自立編

Q 子どもがキッチンで作業する場合、踏み台はどのようなものがよいですか？

A 作業する場所に合わせた高さのものをご用意ください。

『べあぜっと』には、食育につながる取り組みを多数掲載しています。キッチンでなくても取り組めるものがほとんどですが、キッチンで作業する場合には、作業台に手をつけたときにひじが「く」の字に曲げられるくらいの高さの作業台を用意しましょう。

踏み台は、お風呂用のいすなどでも代用できます。必ず、上面が平らで、上に乗ったとき倒れにくい形であること、床の上ですべりにくいことを確かめてからご使用ください。



Q 食育体験の前に、子どもと約束しておくべきことはありますか？

A おうちのかたが「止まって」と言ったら必ず止まる、そのことだけは約束しておきましょう。

年少さんくらいの年齢だと、目についたものに触れようとしたり、途中でふざけ始めたり、ということもあります。気が散らないように作業台まわりに不要なものを置いておかないことは準備の際の鉄則。そのうえで「お母さんやお父さんが『止まって』って言ったら止まるって約束してね。それができたらお料理を始められるよ」と最初に伝えておきましょう。

折を見て、キッチンには熱い部分（鍋やコンロまわり、ポットや炊飯器の蒸気が出る部分）や、切れるもの・けがにつながるもの（包丁、串など）があるのだと教えることも必要です。器具の働きや、なぜ危ないのかをきちんと説明しておきましょう。

Q 食材を用意するときに、気をつけることはありますか？

A できるだけその食材の元の姿を、お子さまに見せてあげましょう。

野菜や果物などは、ご家族の人数などの事情で、まるごとではなくカット済みのものを購入する場合もあるかと思います。また、皮をむいた状態の野菜しか見たことがないというお子さまも多いことでしょう。そこで、店頭で買う際に、「ほら、元はこんな形をしているんだよ」と見せてあげるとよいでしょう。





生活・自立編

Q 作業の説明をするときに、気をつけることはありますか？

A 子どもにわかりやすい表現で、正確に説明しましょう。

作業をする際は、最初に大人がお手本を示します。そのとき、作業と同時にことばで説明することが非常に重要です。たとえば「いちごを洗うときには、いちごが水につかるように、手で優しくべたべたと押すようにするんだよ」といったように、子どもが理解できる表現を使って説明します。このように体験と同時に耳からも情報がインプットされていくことにより、子ども自身もことばが豊かになり、正確に使えるようになっていくのです。



Q 手触り・香りなど五感を使って観察をさせるには、どのような声かけが有効ですか？

**A 大人が先に答えを言わないこと。
「あれ、これは何かな？」と観察を促すことばかけを。**

子どもが自分で観察をしたときには、「わあ、〇〇みたい！」と大人には思いつかないようなユニークな表現をすることがあります。こうした驚きや発見はとても貴重なもの。自分で発見したことは、強く記憶に残るものだからです。

その際気をつけたいのは、大人が「ほら、ここをよく見てごらん。卵みたいな形だね」などと先に自分の考えを言ってしまわないこと。そうではなく、「おや、何かあるよ。これは何だろうね」「どんなにおいがするかなあ。一緒ににおいをかいでみよう」などと言ったほうが、子どもは思ったことを自分のことばで表現しやすいのです。大人が先生になるのではなく、子どもと一緒に驚き、楽しむつもりで取り組んでください。



生活・自立編

Q 子どもに作業させるととても時間がかかるので、つい手を出したくなってしまいます。

A 時間がかかっても子どもが自分でやり方やコツを発見するまで待ちましょう。

子どもに作業をしてもらおうと、たとえばいちごを1粒ずつキッチンペーパーで拭いたり、切った野菜を1つずつゆっくりと鍋に入れたりします。しかしそれも、子どもなりの試行錯誤の過程なのです。「こうやったほうが早いよ」などと言わずに、子どもが納得いくまで待つことが大事。納得がいけば、そのあとは自分の力で、よりよいやり方やコツを見つけ出すはずです。そのときには大いにほめてあげてください。それが子どもにとって大きな自信になるのです。

Q 子どもがやりたがらないときは、どうすればよいですか？

A 無理にやらせる必要はありません。

体調が悪かったり、全く興味がなかったり、いやな記憶がよみがえってしまったりと、やりたがらないときには子どもなりの理由があるもの。やらせたいことではなくやりたいこと、できそうなことを探してみましょう。『べあぜっと』では、「やってみよう」の欄の前に必ず導入としてお話がついています。うまく利用して、遊びに誘うような感じで声かけしてみてください。それでも興味がないうときは、「またいつかやろうね」と声かけし、きっかけを待ちましょう。

Q 途中でやりたがらなくなってしまったときは、どうすればよいですか？

A 疲れた様子が見えたときには、「あとはやってもいい？」と聞き、気持ちよく次の機会が迎えられるようにします。

まだ集中力が長くは続かない時期ですので、「最後までやりなさい」としかったりする必要はありません。疲れてしまってやる気がなくなったのかもしれない。そのようなときには、「あとはやってもいいかな？」と本人に聞いたうえで、頼まれて代わりにやってあげるかたちにししましょう。

飽きてしまった様子が見られたときにも、しかったり黙って取り上げたりするのではなく、「今日はもう終わりにしようか。また今度お願いするね」といった言い方をするすることで、次も気持ちよくお手伝いに参加してくれることでしょう。



表現・身体活動編

幼児期に大切なのは、まず「表現することの楽しさ」を思いきり味わうことです。『ぺあぜっと』の取り組みのなかには、紙を切ったり、貼ったりして作る体験や、クレヨンで絵をかいたりする体験も含まれています。こうした取り組みをとおして、遊ぶものを自分で作り出す楽しさを味わい、想像力や手指の巧緻性（器用さ）を育てていきます。また、親子で体を使って一緒に遊ぶ身体活動もこの領域に含まれます。

Q クレヨン・色鉛筆の持ち方はどのように教えればよいですか？

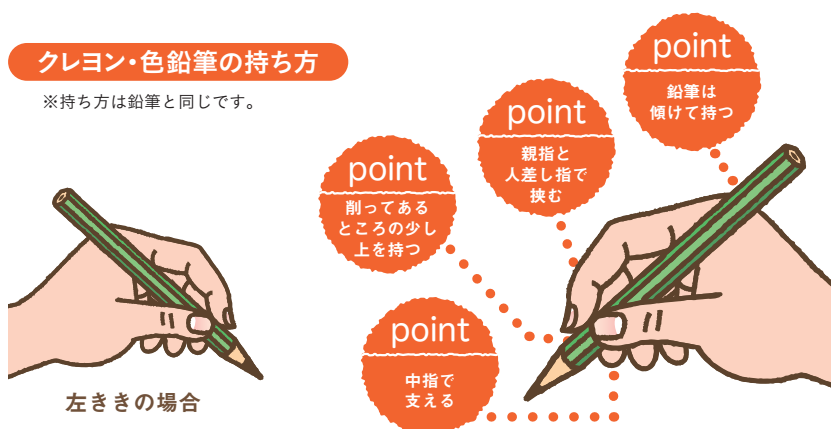
A 最初から正しい持ち方はできないので、「こう持つと使いやすいよ」と手をさしのべ導く姿勢でかかわってください。

クレヨンは、鉛筆のように親指・人差し指・中指の3本でつまむように持つのが正しい持ち方ですが、指の運動機能が未熟な幼児には持ちにくい場合があるので、初めのうちは握ったままでもかまいません。指にぎゅっと力を入れてのびのびと絵をかき、色が塗れることが大切です。子どもは自分の持ちやすい持ち方を自分で見つけているので、最初からそれを否定するような声かけはできるだけ避けるようにしましょう。

色鉛筆の持ち方についても、今のうちから完璧にできる必要はありません。お子さまの「かきたい」という気持ちをいちばんに考えながら、ころ合いを見はからって「こう持つと使いやすいよ」と伝えてみてください。年少期は、楽しく絵をかくことがいちばん大切です。自由に色を選んで塗ることで、色彩感覚も養われます。お子さまの取り組んでいる意欲を認め、できあがったら、「がんばったね」「上手にできたね」などとほめてあげてください。

クレヨン・色鉛筆の持ち方

※持ち方は鉛筆と同じです。





表現・身体活動編

Q 工作に関して、どの程度サポートすればよいですか？

A 最小限のサポートにとどめ、できるだけ見守るようにしてください。

上手に作る事が目的ではないので、おうちのかたがサポートしつつも、できる範囲でお子さまに任せてみましょう。そうすることで、「自分で作った作品」という意識が強くなり、より愛着をもてるようになります。各回の取り組みは、10分～30分くらいの内容になっています。時間がかかったとしても、がんばったこと自体を認め、ほめるようにしましょう。

Q 子どもが工作をなかなかやりたがりません。

A 作りたくないときに無理に作らせる必要はありません。

必ずしもその月に取り組む必要はありませんので、お子さまがやりたくなったときに取り組んでみてください。また、お子さまはおうちのかたと一緒に作るのを喜ぶことが多いため、同じものをお子さまとおうちのかたと1つずつ、一緒に作ってみるのもおすすめです。

Q はさみが上手に扱えず、うまく切れません。

A 1回切りはお子さま、複数回切りはおうちのかたなど、役割を分けて一緒に取り組んでください。

年少の時期は、上手にはさみを使うのがまだ難しい時期です。焦らずに、お子さまができる範囲ではさみを使わせてあげてください。また、短い距離を切るときには、「ひらいて」「チョッキン」、長い距離を切るときには、おうちのかたがお手本を見せたあとで、「ひらいて」「チョッキン」「ひらいて」「チョッキン」などと、お子さまに声をかけながらやらせてみてください。また、曲線を切る場合は、「はさみを1回チョッキンしたら、紙を回す」などと声をかけてあげることで、コツがつかめます。なお、『べあぜっと』でははさみの扱いについて段階的に進んでいきますので、ご安心ください。

「表現」監修者からのメッセージ

監修者紹介



矢野真一

(子ども芸術ネットワーク 代表理事)

30年近くにわたり、子どもたちの造形教室を数多く立ち上げ、講師を務める。子どもの目を輝かせるような声かけやほめかけに定評がある。

子どもが安心して伝えられるよう、子どもの表現を認め、受け止め続けて。

何かを見て何を感じるのか、それをどう表現するのかは人それぞれ。大切なのは、いろいろな価値観・感性があるということを頭ではなく実感としてつかんでおくこと。いろいろあっていいと本当の意味で納得した子は、自分が表現したいように表現すればいいということをしっかり理解し、自分の表現を追求していくようになります。そのためにも、子どもの表現を認め続けることが大切です。認められ続けることで、自分の心にあるものを安心して表に出していいのだと思えるようになれば、子どもは自分から、絵や工作を楽しんでいくようになります。自分の内面を表現し、心豊かに生きていける子どもに育てることがここでのねらいになります。



表現・身体活動編

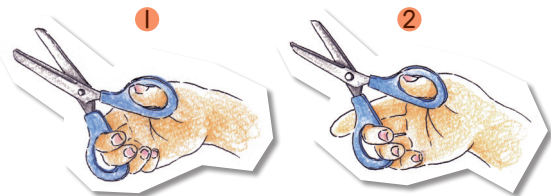
Q はさみの扱い方はどのように教えればよいですか？

A 適宜サポートしながら、ゆっくり見守ってあげましょう。

一人で切るのが難しいときには、まずおうちのかたがお子さまに寄り添って切り、次の段階でおうちのかたが紙を持ち、お子さまが切るだけにすると切りやすくなります。最初から正しいはさみの持ち方・切り方ができる子どもはそう多くありません。いずれできるようになると子どもの力を信じ、自分で正しく持って切れるようになるまでは、温かく見守り、気長に取り組んでみてください。

はさみの持ち方

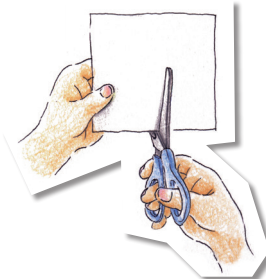
1つの穴に親指、もう1つの穴に入さし指と中指（図の①）、もしくは中指と薬指（図の②）を入れます。



※持つところの大きさにあわせて使いやすい持ち方で持ちましょう。

紙の切り方

- ・切るときは刃を大きく開いて紙を奥まで入れ、はさみの刃を紙に対して垂直に立ててゆっくりと切りましょう。
- ・続けて切る場合は、刃が閉じきる前にとめて、また開きます。これを繰り返して最後まで切ります。



※曲線を切る場合は、はさみではなく紙を回して切ります。

下記5点について、お子さまと約束してから、取り組まれることをおすすめします。

- ・人に刃を向けたり振り回したりしないでね。
- ・はさみを人に渡すときは、はさみを閉じて、刃の部分握って渡そうね。
- ・はさみで切るのは「紙」だけにしようね。
- ・切るときに、はさみの刃の先に自分の指をおかないようにしてね。
- ・はさみの刃を自分に向けないようにしてね。

アドバイス

持ち方については、違っていると指摘するよりも、まずおうちのかたがお手本を見せ、正しく使えたときは、たくさんほめてあげてください。

また、はさみを擬人化した声かけを行いながら、はさみを自分のお友だちのように優しく扱うように促すのもおすすめです。



表現・身体活動編

Q のりをうまくつけることができません。

A うまくできるようになるまでには、たくさんの経験が必要です。焦らず何度も取り組んでみてください。

最初は、指で取ってつけてのばすのりを使うことをおすすめします。でんぶんのりの場合は、チラシなど不要な紙の上にあらかじめ出しておくと使いやすいでしょう。のりの適量がどのくらいかということも、何度も取り組む中で徐々にわかってきます。はみ出したのりはおうちのかたが拭ってください。その際「多すぎたら拭えばいいよ」といった対応方法を示すようにします。また、ウェットティッシュなどを近くに置いて、汚れたら手を拭きながらやるとよいでしょう。

Q 説明を読んだだけでは、子どもがうまく作れないのですが……。

A まず、おうちのかたがお手本として作って見せ、次にお子さまにやってもらいましょう。

できるだけできるところまでお子さまにやってもらい、できないところはおうちのかたがフォローするなど、子どもが主役の体験ができるよう必要以上に手を出さずに見守り、サポートしてください。

大切なのは、上手にやることではなく、取り組みの過程でのお子さまの気づきや発見、自分でできたという達成感です。「自分でできた」という自信が成長につながります。

Q 『ペあぜっと』の体遊びの取り組みは、難しすぎる（簡単すぎる）のですが……。

A 発達度合いの差が大きい時期なので、取り組みによっては難度が高すぎたり、低すぎたりするかもしれません。

難しすぎる場合は、体の発達の様子を見て、できるようになってから取り組んでもかまいません。簡単すぎる場合は、発展のさせ方を掲載しているものもありますので、そちらを参考にしてください。

ご注意ください！ ビー玉やペットボトルの蓋など小さいものを扱う取り組みがありますので、誤飲には十分注意してください。



ことば、数・形・論理編

「ことば」の領域では、お子さまがおうちのかたと一緒に楽しみながら語彙を増やしたり、基本的な文型を体感したりすることです。『ペアゼット』自体がお話仕立てになっていますので、絵本を読み聞かせるように『ペアゼット』を読むことで、語彙を増やし、文字に対して興味をもつ機会をつくることができます。

「数」「形」「論理」の領域では、ものの数を数えたり、形を組み合わせて別の形を作ったりする取り組みを行います。こうした取り組みは、数や形への興味を引き出すきっかけとなります。

Q ひらがながまだ読めません。

A 文字に興味がわくまで待ちましょう。

文字に興味をもつ時期はお子さまによってさまざまです。今の時期に無理に読ませようと躍起になる必要はありません。年少の段階では、ことばに親しむことが大切です。絵本を読むように『ペアゼット』を読んであげましょう。その際、おうちのかたが読む文字にお子さまが興味を示すようなら、文字を指で追いながら読んであげると、文字を覚えていくよいきっかけになるでしょう。また、『かんがえるちからワーク』にも、ひらがなの読みの問題があります。問題に取り組む際に、文字の形をよく見ることで文字への興味を徐々に引き出していきます。

Q 語彙が少ないように感じます。

A 今はことばを蓄積していく時期です。

今は、おうちのかたとの会話や、読み聞かせなどをおして、どんどんことばを蓄積していく時期です。お子さまが口に出さないとしても、おうちのかたが話す趣旨を理解しているなら、お子さまはそこで使われていることばの意味を理解しているということです。今は自分のことばとして使わなくても、次第に蓄積したことばを使って話すようになっていきますので、焦らず見守ってあげてください。また、『かんがえるちからワーク』にも、ひらがなの読みの問題があります。問題に取り組む際に、文字の形をよく見ることで文字への興味を徐々に引き出していきます。

**Q 1 から 10 までは言えるのに、
実際のものの数を正しく数えられません。**

A 日常生活でものの数を数える体験を積み重ねましょう。

1 から 10 まで唱えられる（＝数唱ができる）ことと、りんごが「3つ」あることを「3」という数に対応させることができる（＝数の概念がわかる）こととは意味が異なります。数の概念を理解できるようになるには、日常生活でも数を数える体験を積んでいくことが大切です。たとえば、おやつを食べるときに「おやつを食べようね。○○ちゃんのおやつは1、2、3、4、5、クッキー5枚だよ」などと、実際のものを「1・2・3……」と1つずつ数えてみせる機会を設けていくとよいでしょう。何度かやれば「1・2・3……という数は、ものを数えるときに使うものようだ」ということがわかってきますので、今度は「クッキーを5枚出してね」と言って、一緒に「1・2・3……」と数えてみます。このような体験を積み重ねることで、次第にものの数を正しく数えられるようになっていくでしょう。



自然・環境編

この領域の体験は、身近な草花・昆虫などを観察し、自然への関心を高め、科学的思考力の基礎を築くことをねらいとしています。

**Q 『ぺあぜっと』で紹介されている自然観察が、
住んでいる地域の季節と合いません。**

**A 順番どおりでなくてもかまいませんので、
季節が合うときに取り組んでみてください。**

『ぺあぜっと』では、南関東～静岡県の季節をもとに、少し早めと思われる時期に自然観察の紹介をしています。自然観察は天候にも左右されますので、『ぺあぜっと』の取り組みがお住まいの地域の季節より早い場合は取り置いていただき、季節に合ったタイミングで行ってください。

**Q 屋外での体験の場合は、
どのようなことに注意したらよいですか？**

A お子さまから目を離さず、安全に配慮してください。

屋外での取り組みに夢中になると、お子さまの注意力は散漫になります。いつも以上に自動車などに気をつけ、できればお子さまと手をつなぎ、目を離さないようにしてください。

また自然のなかでの体験活動の際には、立ち入ってよい場所かどうかをおうちのかたがご判断のうえ、帽子をかぶる・できるだけ肌を露出しない服装にする・こまめに水分補給をする・むやみに動植物に触れないなど、活動場所や季節・天候に合わせて安全への配慮をしています。



『かんがえるちからワーク』Q & A

『かんがえるちからワーク』は、ワーク教材に慣れていないお子さまでも楽しく取り組めるように、親子で会話しながら解く問題を出題していますが、発達度合いの個人差が大きい時期のため、お子さまがやりたがらない場合は無理強いせず、お子さまが興味をもつタイミングを待ちましょう。「問題を解くって楽しい!」と感じる経験を積み重ねることが大切です。

Q 簡単な問題なのに、説明しても理解してくれません。

**A わからなくてあたりまえ、という気持ちで、
正解することより楽しむことを優先してください。**

おうちのかたにとって簡単な問題に見えたとしても、ワーク問題に慣れていないお子さまにとっては、すべてが新しいことへの挑戦。初めはできなくてあたりまえなのです。説明してもわからない問題は、必ずしも正解にたどり着けなくてもだいじょうぶ。日常生活のなかで、その概念にふれることで少しずつ理解できるようになるでしょう。

**Q ワークがすぐ終わってしまうので、
追加で市販のワークにも取り組んだ方がよいですか？**

A 取り組まなくてだいじょうぶです。

机上の問題ばかりを与えすぎると、実感を伴った学びが得にくくなります。さらに学びを深めたい場合は、『かんがえるちからワーク』にある自然や論理分野の問題を実際にやってみるなど、「知識と実体験を結びつける取り組み」をするとよいでしょう。

Q まとめてやりたがり、すぐに終わってしまいます。

A 教材に慣れるまでは、お子さまにやりたいだけやらせてあげてもかまいません。

最初のうちはお子さまの意欲を優先し、やりたいだけやらせてあげてください。小学校入学が近づいてきたら、毎日の学習習慣をつけることを目標に、少しずつでも毎日取り組めるよう、お子さまに「今日のページ」を示してあげるとよいでしょう。各回にかける時間は短くてかまいません。



『かながえるちからワーク』Q & A

Q

ひらがながまだ読めませんが、
ひらがなの問題にはどう取り組んだらよいですか？

A

文字に興味をもつ時期は個人差があるため、まったく興味を示さないようであれば、飛ばしてしまってかまいません。
お子さまが嫌がらないようであれば、同じ文字を探す問題は、クイズ感覚で取り組んでみましょう。

年少では提示された文字と同じ文字を探す問題を出題します。ひらがなに興味をもたせるとともに、字形に注目することをねらいとしています。まだひらがなが読めないお子さまでも、クイズ感覚で取り組めるとお思いますので、嫌がらないようならやってみてください。また、同じ文字が探せたら「これは『りんご』の『り』だよ」などと声をかけると、字形と音が一致しやすくなります。

まずはクイズ感覚で楽しみながら、1音に1文字が対応することを理解し、音と字形を一致させていきましょう。

ひらがなの学習について

年少の『かながえるちからワーク』では、ひらがなの「読み」を重点的に学習します。

4～9月のねらい 文字の形になじむ



▲例：4月号 5

まだ文字が読めない段階の幼児は、文字を☆や○などと同じ記号として捉えます。そこで、同じ文字を探す問題にクイズ感覚で取り組み、文字の形を自然に認識できるようにします。

声かけのアドバイス

「これは『く』だよ」などと声をかけていただき、文字と音（おん）を一致させましょう。

10～3月のねらい 単語を読む

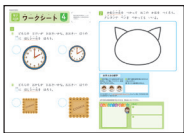


▲例：10月号 11

イラストに描かれたものの名前になるように、文字シールを貼ります。この取り組みによって、「単語は文字の組み合わせによってできており、1音ずつに分解できること」「1文字に1音が対応していて、同じ音には同じ文字を当てること」を学びます。

声かけのアドバイス

シールを貼ったら、1文字ずつ指でさしながら発音してみましょう。視覚で文字を、聴覚で音を認識することで、文字への理解が深まります。



「ワークシート」Q & A

1カ月の学習のしめくくりとして、提出課題に取り組みます。提出後は、担任指導者が解答に合わせ、お子さま向けコメント・おうちの方向けアドバイスの両方を添えてお返しします。「できた!」という達成感が学習意欲を支え、表現することへの自信につなげます。

**Q 『かんがえるちからワーク』が終わらず、
「ワークシート」に取り組みません。**

A 終わっていなくても取り組んで OK です。

「ワークシート」は、その月の『かんがえるちからワーク』で学んだことの振り返りができる出題となっていますが、必ずしも全部終わってから取り組まなくてはいけないものではありません。お子さまの気分がのっているときに先に課題に取り組んで提出いただき、その後に教材に取り組む形でも問題ありません。

**Q 子どもが一人で解けないとき、
親がヒントを出したり手伝ったりしてもよいですか？**

**A お子さまがとまどっている様子のときは、
おうちのかたがフォローいただいてもかまいません。**

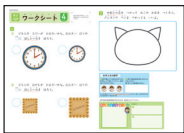
お子さまの取り組み状況に応じて、問題を言いかえたり、ヒントを出したり、問題文の読み上げを手伝ったりしていただけると、お子さまは安心して取り組むことができます。

「ワークシート」では、答えが1つに定まらない問題も出題しています。おうちのかたの気持ちとしては「解答として不足しているのでは」「質問の答えになっていないのでは」と不安を感じる場面もあるかもしれませんが、お子さまなりの考えを表現することがねらいですので、お子さまの発言や解答を尊重し、見守っていただければと思います。

**Q 返送された「ワークシート」は
親子で見直したほうがよいですか？**

A ぜひ一緒にご確認ください。

お子さまにとっては、担任指導者とのやり取りを通じて、自分の取り組みを振り返るきっかけとなります。おうちのかた向けにも、お子さまの頑張ったところや、今後の学びに関するアドバイス、サポート方法をお伝えしていますので、ぜひ親子でご確認いただき、お子さまの成長と学びの成果を実感してください。



「ワークシート」Q & A

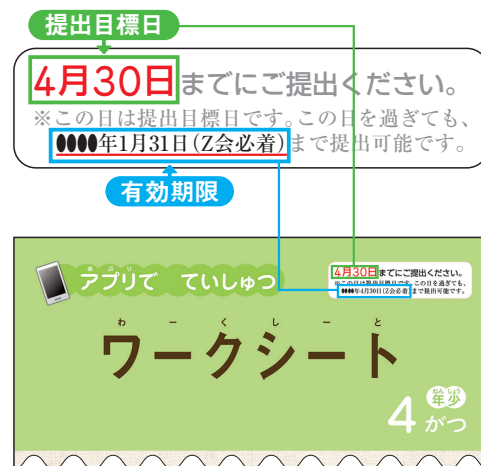
Q 時間がなかなか取れず、提出課題を提出できません。

A 添削有効期限内にご提出いただければ大丈夫です。

提出目標日を過ぎても、添削有効期限内にZ会に届くようにご提出いただければ、お返事を郵送でお返ししますので、お時間のあるときに取り組んでご提出ください。添削有効期限は「ワークシート」の表紙に記載されています。

※添削有効期限は「受講月を1カ月目として、10カ月目の月末(例:4月号の場合は、翌年1月31日)」です。

※提出は「Z会答案撮影アプリ(iOS版)」から行います。iOS以外の端末をお使いの場合は、「Z会答案提出アプリ」をご利用ください。詳しくは、「べあぜっとシート」「ワークシート」の裏表紙をご覧ください。



※デザイン・表記は変更する場合があります。



『いっしょにおでかけブック』Q & A

『いっしょにおでかけブック』は、絵本のようにお話を楽しんだり、図鑑のように好奇心を引き出したりできるようにと作られた、年少向けならではの教材です。おでかけに持ち歩きやすいミニサイズなので、スキマ時間にもお使いいただけます。

Q 『いっしょにおでかけブック』の読み聞かせは、どのように行うのがよいですか？

A 裏表紙にある、「やり方とねらい」欄を先にお読みいただき、その内容にそってお進めください。

基本的には、まずお話をひととおり楽しんだあとで、絵探しを楽しんだり、質問の答えを考えたりといった進め方をするのがよいでしょう。

もちろんご自宅で読むこともできますが、おでかけ先で、レストランや乗り物の中などちょっとしたスキマ時間にも楽しめるように作られています。絵の中に登場する食べ物、植物、乗り物などを実際に見つけたときには、「これ、おでかけブックに出てきたね」というふうに結びつけてあげると、お子さまの理解力が高まります。



裏表紙では、その号のねらいやお子さまへの声かけのしかたなどをご紹介します。

Q 扱っている題材によって、興味のあるなしに差があります。

A 興味の対象は個人差が大きいもの。無理に興味をもたせようとはせず、きっかけを待ちましょう。

お子さまの興味の対象には個人差があり、さらに月齢や経験の有無などによっても、その号のテーマに興味をもてる・もてないが変わってきます。また『いっしょにおでかけブック』には、長期にわたって繰り返し楽しんでいただけるよう、年少児にとっては少し理解しにくい（抽象的な）内容も含まれています。

届いた時点では興味の無い号があっても、ちょっとしたきっかけで急に興味が湧いてきたりするのがこの時期の子どもです。しまいこまずにふだんから手の届くところに保管しておいてください。おでかけなどの際には、持っていく号をお子さま本人に選んでもらってもよいですね。



『いっしょにおでかけブック』Q & A

Q

子どもに質問しても、思うような答えが出てこないことがあるのですが……。

A

答えを出すことが目的ではないので、新しいことに興味をもったり考えたりするきっかけと捉えてください。

たとえば、「これはなにかな？」というような質問があつて、その絵が「消防車」だった場合、お子さまがまだ消防車そのものをあまり認識していない場合には、答えが出てこなくても当然といえます。『いっしょにおでかけブック』に描かれたものの中には、実際の生活場面でまだお子さまが目にしたことのないものも多々あることでしょう。質問に答えられることが重要なのではなく、『いっしょにおでかけブック』をきっかけとしてそれに興味をもつことができればよい、とお考えください。そして、実際に消防車を見かけたときに、「あれが消防車だよ」というふうに教えてあげてください。

なお、『いっしょにおでかけブック』の中には、「この人は何をしているんだと思う？」といったように、自由に想像してよい（＝答えのない）質問も含まれています。答えのあるクイズ的な質問に慣れていると、こういった質問に対してはことばが出にくいもの。ふだんから、「これ、何に見える？」「何だと思う？」といった質問をする機会をつくり、自由な発想を楽しみましょう。お子さまのことばを否定したりせず、じっくり耳を傾け、考えたこと自体をほめる雰囲気をつくると、自由に答えていいんだということがお子さまにも伝わり、さまざまな発想ができるようになります。